

## 5年生が友情田の観察



社北小学校には、地域の方からお借りして米作りを体験する「友情田」があります。狐川の近くにあり、学校から歩いて10分ぐらいで行けます。毎年、5年生が田植えを行い、今年は、4月28日に早生品種の「ハナエチゼン」の田植えを予定していましたが、県の緊急事態宣言が出され

たことを受け、感染防止のために中止しました。かわりに田植えをJAや地域の方が、田植機を使って行ってくださいました。

5月12日(火)、5年生が「友情田」で育つ稲の観察に出かけました。一面に水が張られた田んぼの中に、しっかりと苗が植えられていました。まだまだ、苗の背丈は低く、田んぼに張られた水が目立ちます。子どもたちは、広々とした田んぼや田植機でまっすぐに植えられた苗の様子を観察しました。

学校に帰り、観察したことをワークシートにスケッチも描いてまとめました。苗の間隔を絵と文字で分かりやすく解説したワークシート。「田んぼの中には、いろいろな生き物がいた」「田んぼの隅に赤い蛇口があって、そこから水を出し入れする」などと詳しく説明したワークシート。どれも、子どもたちの心に残った観察だったことがうかがえました。

また、地域の方のご厚意で苗の一部いただき、学校で育ててみることにしました。田んぼの土をバケツに入れ、そこへ苗を植えます。秋にどれだけの米が収穫できるか楽しみです。

本来なら、ぬかるむ田んぼに足を取られながら、四苦八苦しながら手植えするところです。農作業の大変さや田植えをやり終えた達成感を体感できませんでしたが、自分たちでバケツに植えた稲や「友情田」の稲を観察して農業の大切さを学んでいきます。

